

平成30年度 学校評価実施報告書

教育目標

夢を育む学び舎の創造

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
	<ul style="list-style-type: none">・なかまと共に夢を育み、人間的に大きな成長を遂げる場として、教育活動が行われている。・生徒は「夢」を持ち、目標に向かって努力することの大切さを生徒は理解し、行動できるようになってきている。・なかまと共に学び、人間的に大きく成長している。・一人一人の生徒を大切にし、教職員全員で生徒に応じた成長を促す教育活動に努めることができた。・生徒の活躍の場を増やすことによって、生徒の成長が目に見え、地域・保護者から信頼される学校になっている。・教育目標の共通理解を図り、全教職員が目指す子ども像を意識しながら教育活動を行っていくようになってきている。・小中一貫教育の目指す子ども像を明確にしたことによって、9年間において段階的に育成する子どもの姿を小中で共通理解することができた。・人権教育の充実を図ることができ、教職員および生徒の人権意識の向上につながった。・進路保障に向けての様々な取組は効果を上げているが、自分の生き方を深めるキャリア教育の視点では、課題が残っている。・学校・家庭・地域との連携を図ることができ、学校の教育活動において保護者・地域から様々な協力を得ることができた。・学校の施設・設備において計画的に環境整備を進めることができてきている。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none">・高雄校の教育活動を通して、生徒は「夢」を持ち、目標に向かって努力することの大切さを生徒は理解し、行動できるようになってきている。・教職員全員は一人一人の生徒を大切にし、個に応じた成長を促す教育活動に努めている。・地域で生徒の活躍の場を増やすことによって、子どもや大きく。・進路保障に向けての様々な取組は効果を上げているが、自分の生き方を深めるキャリア教育のでは、地域の大人たちの協力も必要。・学校・家庭・地域との連携を図ることができている。・学校の施設・設備において計画的に環境整備を進めることができてきている。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	平成30年9月12日	学校運営協議会
最終評価	平成31年3月6日	学校運営協議会

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

- ・生徒自ら課題に気づき主体的に学ぶ意欲を喚起し、自学自習できる生徒の育成と学力向上をめざす。
- ・全教員が、生徒に「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」を実感できる授業展開ができるように、主体的・対話的な学びを意識した授業改善に取り組む。

具体的な取組

- ・授業のはじめには「めあて」・「見通し」を明確にし、授業中には「生徒が考える（活動する）場面」をつくり、生徒が協同的に行う「振り返り」を行うことを徹底する。
- ・生徒が自ら課題に気づき、課題解決に取り組む過程で「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」を実感できる授業実践に向けた教材研究と授業改善を行う。
- ・「学習確認プログラム」の事前・事後指導は丁寧に行うとともに、「問題データベース」を活用した小学校の振り返りと中学校の学習の定着を図る。
- ・朝学習の充実を図り、生徒の自学自習の意識づけを徹底する。
- ・授業と連動させた家庭学習課題「積み重ね学習」の内容の充実を図るとともに、「積み重ね学習」を通した自学自習の習慣づけを進める。
- ・土曜学習・夏休みの自主学習教室での「問題データベース」の活用を進めるとともに、学習相談等の充実を図る。
- ・学校司書と協力して、図書館を活用した読書活動や学習活動を充実する。
- ・総合育成支援員と連携しながら、LD等支援の必要な生徒に対しては個々の課題を明確にとらえ、行動面だけでなく学力面への支援も充実させる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・アンケート ①「子どもは、授業がわかりやすいと言っているか」
②「子どもは、家庭で自主的に学習をするようになってきた」
- ・確認プログラム・全国学力学習状況調査の結果の分析

中間評価

各種指標結果

各種指標結果（1回目）

- ・アンケート ① 実現度 保護者 4. 8 生徒 5. 7 教師 4. 9
② 実現度 保護者 4. 3 生徒 4. 7 教師 4. 9
- ・1年生ジョイントプログラムは国語が全市平均を上回ったが、数学は課題が残る結果であった。
2年生確認プログラムは全教科全市平均を大きく上回る。3年生確認プログラムは数学が全市平均を下回る。
- ・全国学力学習状況調査は、国語、数学ともにB問題が伸び悩んだ。

自己評価

分析（成果と課題）

アンケート結果①②より、どちらも実現度は高いとはいいくらい。②に関しては、ここ数年実施している「積み重ね学習」により、毎日の家庭学習課題を用意はできているが、生徒自身の自主的な学習にまだ課題がある。

1年生ジョイントプログラムの結果から、授業には丁寧な手立てが必要。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>「積み重ね学習」をやり遂げるだけではなく、生徒自身が授業の予習や復習に取り組み、自主学習の幅を広げる取組が必要。また自主学習習慣への後押しとして、テスト前の自主学習会等を通しての積極的なアプローチも必要。</p> <p>「わかりやすい授業」を目指し、授業のはじめには「目標」を明示の徹底と、授業中には「生徒が考える（活動する）場面」をつくりことをさらに意図的に深める。</p> <p>1年生を中心に、学習の定着しにくい生徒には、授業中の個別の支援を心掛ける。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート ①「子どもは、授業がわかりやすいと言っているか」 ②「子どもは、家庭で自主的に学習をするようになってきた」 ・確認プログラムの結果の分析

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・スマートホンの使用が、家庭学習の弊害になっているのではないか。
- ・授業の基本は、読解力。家庭の教育力無しでは読書量は増えない。新聞を読む習慣が大事。
- ・地域力の高い自治会に健全な子が育つ。子供たちにも地域への関心を高めてほしい。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート ① 実現度 保護者 5. 6 生徒 5. 1 教師 5. 7 ② 実現度 保護者 4. 2 生徒 3. 9 教師 6. 0 ・確認プログラム 1年生は全市平均に比べると学習の定着がまだまだである。2年生、3年生は順調に伸びが見られる。特に2年生は、どの教科も全市平均を大きく越える。
	<p>分析 (成果と課題)</p> <p>アンケート結果より、3年生が自主的に家庭学習をするようになっている。一方1、2年生では家庭学習をする生徒としない生徒がはっきり分かれている。確認プログラムの結果からは、1年生にテコ入れが必要。反復的な学習で基礎の定着を必要とする学力層の生徒が割合として多い。</p>

分析を踏まえた取組の改善

「積み重ね学習」の継続だけではなく、その日の授業の復習や明日の予習など一定時間の家庭学習が必要。1年生の中には「なにをすればよいか」を具体的に提示しなければならない生徒もある。全体として、新聞や本を読む機会を自主的につくり、語彙力をつけることが必要。

「わかりやすい授業」を目指し、アンケートの結果を真摯に受け止め、日々の授業改善に努めたい。

重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・生徒が考える場面を持ち、自らの考えをまとめ発表する授業が行われるようになり、授業改善が図られるようになってきている。他の意見を取り入れながら思考を深める授業展開を図っていくためにも、研究授業の機会を増やしていきたい。
- ・朝学習や積み重ね学習の効果が出てきており、家庭学習の時間が増えてきている。定期テスト前の学習会においても、「問題データベース」を活用し、自主的に学習する生徒が増えた。また、学習確認プログラムの「予習シート」「フォローアップシート」を丁寧にやり遂げている。
- ・LD等の学習支援の必要な生徒に関して、個々の支援が充実してきており、落ち着いて学習し

	定着が図れてきている。今後も個々の課題を明確にし、個に応じた支援を継続していきたい。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反復のある家庭学習が広い範囲での学力の定着につながる。 ・進路実現に向けて、3年生は集中して学習している。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いを認め合い、励ましあう人間関係づくりの中で思いやる心の育成を進める。 ・教育活動全体を通じて道徳的価値の理解を深める道徳教育を推進する。「ねらい」を明確にした道徳の授業を実践する。 <p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦割りのフレンドリー班の活動を通した<u>仲間意識の向上と自尊感情の高揚</u>を図る。 ・一人一人を大切にするために、学年を越えた綿密な情報交換を行い、見逃しのない観察、手遅れのない対応、心の通った指導を行う。 ・道徳教育については、教科・領域を超えた連携を図り、<u>問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れ、道徳的価値の理解を深める指導の充実</u>を図る。 ・人権教育主任を中心として、外国人・同和・男女平等・性教育などの人権課題の意識を高め社会に適応した人権教育の充実を図る。また、国際理解の時間を設定し多文化理解を深める。 ・和太鼓や茶道などの伝統文化を大切にし、地域の伝統と文化を継承できる生徒を育成する。 ・地域理解を深め、中学生として地域に貢献（高雄活性化プロジェクト）できることを考え、時移行できる取組の充実を図る。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート①「子どもたちは楽しく学校へ通っているか」 <ul style="list-style-type: none"> ②「子どもは、人を思いやり、相手の立場を考えて行動しようとしているか」 ③「学校は親身になって子どもの相談に応じているか」 ・クラスマネジメントシートの分析
--	---

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <p>各種指標結果（1回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート ① 実現度 保護者 5. 0 生徒 5. 4 教師 5. 5 <ul style="list-style-type: none"> ② 実現度 保護者 4. 9 生徒 4. 9 教師 5. 1 ③ 実現度 保護者 4. 3 生徒 5. 3 教師 5. 4 ・クラスマネジメントシートはおおむね良好な結果。 <p>分析（成果と課題）</p> <p>昨年度と比べると、学校生活を自ら楽しもうとする積極性に欠けるところが見られた。また、人を思いやり、相手の立場を考えて行動をすることは多くの生徒ができている。多くの生徒は悩み事の相談を教師にできている。総合的な学習の時間や行事でのフレンドリー活動を通し</p>
自己 評 価	

	て、信頼関係の構築や、社会性の獲得など、大きく成長が見られた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>困ったことや悩みを先生や友人に相談ができない生徒もいることをしっかりと認識する。さらに生徒の変化や様子に目を配る。また、教育相談でゆっくり話をする機会を作つて相談のきっかけにしたり、時にはスクールカウンセラーへの相談を促したりすることも必要。</p>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート①「子どもたちは楽しく学校へ通っているか」 <ul style="list-style-type: none"> ②「子どもは、人を思いやり、相手の立場を考えて行動しようとしているか」 ③「学校は親身になって子どもの相談に応じているか」 ・クラスマネジメントシートの分析

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・あいさつは大事。まずは家庭での笑顔の「おはよう」が欲しい。
- ・地域の方々と接する共通のものとしてあいさつの重要度をわかってほしい。
- ・地域行事へ参加する生徒の減少が心配。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

- ・アンケート ① 実現度 保護者 5. 0 生徒 5. 4 教師 5. 8
- ② 実現度 保護者 5. 4 生徒 5. 3 教師 5. 3
- ③ 実現度 保護者 3. 9 生徒 5. 0 教師 6. 1
- ・クラスマネジメントシート 概ね良好。

自己評価

分析(成果と課題)

生徒は学校生活を楽しく過ごしている。また、概ね人を思いやり、相手の立場を考えて行動できている。また、生徒は悩み事の相談を教師にできている。総合的な学習の時間や行事でのフレンドリー活動を通して、信頼関係の構築や、社会性の獲得など、大きく成長が見られた。

分析を踏まえた取組の改善

アンケート結果より、概ね生徒は先生に悩み事を相談しやすく思っている。しかし、そのことに対する保護者の評価はそれほど高くはない。また、本当に目を向けなくてはいけないのは、相談をしにくい生徒達。このことを真摯に受け止め、さらに生徒の心の変化へ目を向ける必要がある。教育相談の活用だけでなく、スクールカウンセラーへの相談の促しも必要である。

重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・縦割りでのフレンドリー活動を通してお互いを認め合い、思いやりを持って行動する心の育成を図ることができている。また、地域活動への参加・協力によって自己有用感を高めることができた。
- ・人権教育主任を中心として、教職員の 人権意識を高めるとともに、生徒への人権教育の充実を図ることができた。
- ・様々な体験学習とフィールドワークを通して、京都の伝統文化や歴史に触れさせることができ、伝統文化の継承について考えさせることができた。
- ・人間性を高めるために、人間としての生き方・在り方について考え、深めていく道徳教育をめざし、様々な教育活動で関連付けた指導ができるようにする必要がある。

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・授業以外の場面での教師の関わりが、子ども達の悩みの打ち明け場にある。大切にして欲しい。 ・先生はいつの場面も子どもに寄り添ってほしい。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ・命を守り、健やかな心身を育てるために、生徒が自らの健康状態と生活実態を把握し、自分の健康を適切に管理していく意識や態度を育てる。 ・性に関する課題が多様化していることから、教職員に適切な研修を実施し、性に関する指導の充実を図る。 ・学校や地域において、危険を予測し適切に行動できるように、「安全教育」（生活安全・交通安全・災害安全）を充実させる。
具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣の定着を図り、家庭・保護者と連携し、規則正しい生活習慣の確立を目指す。 ・日々の継続的な健康観察の実施によって、自らの健康に興味・関心を持たせるとともに、自己管理能力の意識も高める。 ・「保健委員会だより」「保健だより」等の情報を活用した保健教育を推進する。 ・性について正しく理解し、性に関して適切な行動選択ができるよう、発達段階を踏まえた性教育学活を実施し指導の充実を図る。 ・通学路である国道162号線の道路拡幅工事が継続されているため、安心安全の保障に向けて工事箇所区間前後の登校指導を徹底する。 ・防災・不審者対応等の避難訓練を実施し、生徒や教職員が安全に対する意識を持ち続けるようにする。また、小中合同の防災訓練を実施し、災害時に中学生ができる事を考える機会を作る。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・アンケート①「子どもは朝食をとって登校しているか。」
- ・防災訓練等、安全教育の実施
- ・健康観察、健康診断の点検・検証

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート① 実現度 保護者 6. 4 生徒 6. 5 ・「校区内で発生した強盗事件で刃物を持った犯人が逃走中」を想定した防犯訓練の実施。 ・健康観察、健康診断の結果からは、特に大きな問題は見られなかった。 	
自己評価	分析（成果と課題）
	毎日の朝食もしっかりと取れていて、おおむね健康的な生活が送られている。防犯訓練を通して適切な安全教育が行えた。保健だよりや食育だよりが定期的に発行でき、タイムリーな話題も提供できた

学校 関 係 者 評 価	分析を踏まえた取組の改善
	保健だよりや食育だよりの定期的な発行は今後も継続していく。小学校との合同での防災訓練を今年度も検討。小学校と連携しての登下校の安全指導は今後も継続。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート①「子どもは朝食をとって登校しているか。」 ・防災訓練等、安全教育の実施 ・健康観察、健康診断の点検・検証

最終評価

自己 評 価	中間評価時に設定した各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート ① 実現度 保護者 6. 7 生徒 6. 5 ・校内での火災発生と、大きな地震を想定した 2 度の防災訓練と不審者対応の防犯訓練の実施。薬物乱用防止教室の実施。
	<p>分析 (成果と課題)</p> <p>毎日の朝食もしっかりと取れていて、おおむね健康的な生活が送られている。防災訓練や薬物乱用防止教など効果的に行えた。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>前期に続き、保健だよりや食育だよりが定期的に発行でき、タイムリーな話題も提供できた。今後も継続していく。防犯訓練、防災訓練を来年度も実施の方向。小学校と連携しての登下校の安全指導は今後も継続。</p>
	<p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康管理、規則正しい生活習慣の確立については、家庭・保護者と連携を図りながらしっかりと実行できている。 ・きめ細かい保健教育の成果が上がってきており、生徒の健康に関する自己管理能力も向上してきている。 ・通学路の問題が解決していないので、登下校の安全指導は継続する必要がある。 ・学校施設の立地条件から考え、今後防災教育に力を入れていく必要がある
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝食をしっかりとることの大切さの指摘。高雄中ではかなり実現できている。

(4) 学校独自の取組

重点目標
<ul style="list-style-type: none"> ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた高雄の地域を愛する態度を養うことにより、自他を

尊重し、地域や社会の平和と発展に寄与する態度を養う。

具体的な取組

- ・和太鼓や茶道などの伝統文化を大切にし、地域の伝統と文化を継承できる生徒を育成する。
- ・平岡八幡宮や神護寺等、地域の国宝や文化財にふれ、宮司や貫主の講義などを通じて地域の歴史と文化に対する理解を深める。
- ・総合学習では、全校生徒による和太鼓の演奏に取り組み、和太鼓の良さを地域へ発信する。
- ・全校生徒で百人一首に取り組み、古典に対しての理解を深めるとともに、本格的な競技法を学ぶ。
- ・高雄校の伝統的な行事「歓迎遠足」や「クリスマス会」への参加から、地域への愛情を深める。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・生徒の感想やアンケート
- ・地域行事への参加状況

中間評価

各種指標結果

総合学習での、全校生徒による和太鼓の演奏に取り組みは、生徒に大きな成就感を与えると共に、仲間作りやリーダーシップの育成の面でも大きな効果があった。地域行事では、夏祭りへの茶道部の参加、ピースランとの交流では和太鼓部が参加。例年生徒会や和太鼓部が参加する平岡八幡の例祭は、台風のため中止になった。

自己評価

分析（成果と課題）

学校祭での保護者や地域に向けての「和太鼓演奏」「京炎そでふれ」の発表を通し、生徒たちは大きな自信がつき、意識も高くなった。茶道部や和太鼓部も活動の場が与えられ、大きな自信につながった。

分析を踏まえた取組の改善

今後も本校の特色として、生徒たちにも胸をはった取り組みとなるようしていきたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・生徒の感想やアンケート
- ・地域行事への参加状況

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・生徒の発表は毎年楽しみにしている。地域も活性する。
- ・少年補導等の地域行事に参加する子供が減少するのは心配。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

クリスマス会の取り組みは、生徒に大きな成就感を与えると共に、仲間作りやリーダーシップの育成の面でも大きな効果があった。地域行事では、和太鼓部が「もみじちゃん祭り」に参加。TVにも取り上げられた。マウンテンマラソンにも参加。

自己評

分析（成果と課題）

クリスマス会の取組を通して、生徒たちには自分達だけで企画・運営を行うことにより、大きな自信がついた。また、地域の子供達に優しく接し、地元の子供達の連帯感が深められた。和太鼓

価値	<p>部も活動の場が与えられ、大きな自信につながった。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善 今後も本校の特色として、生徒たちにも胸をはった取り組みとなるようしていきたい。</p> <p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も地域の行事への参加を通して、和太鼓や茶道などの伝統文化を大切にする取り組みができた。 ・台風や土砂災害の影響で、平岡八幡宮や神護寺への年中行事へはすべて参加することはできなかつた。 ・総合学習では、全校生徒による和太鼓の演奏に取り組み、和太鼓の良さを地域へ発信できた。 ・全校生徒で百人一首に取り組み、古典に対しての理解を深めるとともに、本格的な競技法を学ぶことができた。3月の紫翠杯へも参加できた。 ・高雄校の伝統的な行事「歓迎遠足」や「クリスマス会」への参加から、地域への愛情を深めることができた。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マウンテンマラソンへの参加は、子どもらに満足感を与えた。 ・ジュニア円卓会議のように、地域外での交流が子ども達に大きな刺激となり、視野を広げる。